



鳩レース

もみ ひとり

どこにでもある「都会」に、緑や土や生き物たちの生臭い匂いが数%ほど含まれる風が吹く季節になった頃です。「都会」にならどこにでもあるでしょう、人々が憩える場所として提供される「公園」。この都会の公園にも、例外なく首をひこひこさせながら地面を歩く「鳩」がたくさんおりました。彼らは、我々人間と長い歴史を共にしてきた仲間なんですよ。そう怪訝な顔をして邪魔がらないでください。

そんな、どこにでもある公園に遊びに来たお子さんがおりました。彼は、5歳くらいでしょうか。もう立派に自分の足で歩けるようです。どこのお子さんでもするように、鳩と5mほどの距離を置いて、最初は彼らの動きを凝視しておりました。ですが、眺めているだけの関係に飽きたのでしょうか。次に、鳩たちと関わろうと思い立ったのか、彼らにそろそろ近づいていきました。鳩殿も何者かが近づいてくる感じを察知したのでしょうか、心なしか足早になってそのお子さまと距離を置こうとします。すると、お子さまは鳩に追いつけないことが分かり、「きゃ、きゃ」と喜声（きせい）をあげながら鳩殿を追いかけ始めました。

鳩殿はびっくりです。いきなり人間が襲ってきたのですから。しかし、鳩殿も負けてはおりません。時折羽をばたつかせ、オリンピック選手顔負けの助走なし幅跳びで砂を蹴散らし、お子さまと距離を置き、ぽぽぽぽ、と走ります。こうして、鳩と、鳩を追いかけるお子さま、という構図が出来上がりました。これを、都会式「鳩レース」と申します。

都会式「鳩レース」の競技内容は以下の通りです。ルールは簡単。鳩と人間で競争を行い、どちらが2分後に「追いかける」側になるかで勝敗が決まります。例えば、あなたが鳩を追いかけるところからスタートするとしましょう。2分経った後もあなたの後ろに1羽の鳩もせまってきていない場合（あなたが鳩を完全に「追いかけている」場合）、勝者はあなたです。逆に、何らかの異変があり（あなたがつまづいた、または追いかけている鳩側の応援があり、あなたの後ろに複数羽いた、など）2分後にあなたが鳩に追いかけていた場合、または、あなたの足が速く、追いかけるべき鳩がいなくなった場合は、あなたの負けです。

さて、先ほどのお子さまの勝敗はいかに。最初は、お子さまが鳩を「追いかけて」おりました。しかし、先頭の鳩が賢かったのでしょうか。いびつな円を描くような軌跡で追いかけてこをしておりましたので、次第にお子さまの後ろに逃げ遅れた鳩が出てくるようになりました（ちなみに、追いかけていた鳩は群れで複数羽でした）。かくして、2分経過後、お子さまは追いかけているのか追いかけているのか分からなくなり、勝負は引き分けです。

あなたもよく目にしているはずですが、都会式「鳩レース」を。この、微笑ましい競技を目にしたら、ぜひ、レースに参加してください。そして、優しく、心の中で審判をくだしてください。さあ、誰が「一番」かな。

(あとかき)

現実に、「鳩レース」なるものを推進する社団法人が存在します。現実の「鳩レース」は、「複数の愛鳩家が各自の飼育している鳩を持ち寄って、同一地点から同時に放鳩し、誰の鳩が速く帰ってくるか競う」ものです（社団法人HPより）。しかし、この小話はその「鳩レース」とは一切の関係がございません（全て著者の妄想です）ので、ご注意願います。